

# III 活動記録

## 1. 活動実績(令和4年度)

本プログラムでは、達成を目指す目標を具体的に設定しており、各項目について年度ごとに数値目標を掲げている。令和4年度における目標値及び達成状況を以下に示す。

目標達成状況は概ね良好であり、中でも、国際学会の発表者数については21名、受賞件数4件など、コロナ禍にもかかわらず目標を上回る結果を残した。

目 標項目	目 標値	達 成状況
国際学会の発表者数	8名程度	21名
海外連携先機関数	7機関	7機関
受賞件数	1件程度	4件
IMIコロキウム開催数	8件程度	8件
卓越社会人博士課程制度適用学生数	—	1名
企業客員教員講義	2件程度	2件
日本学術振興会特別研究員採択者	新規採用1件	新規採用1件
分野横断的共同研究課題数	1件程度	1件
産業界との共同研究に参画した学生数	1名程度	3名
留学生・社会人学生の割合	20%以上	27%
月10万円程度もしくはそれ以上の経済支援を受ける学生数	20名以上	20名
国際シンポジウムの開催数	1件以上	4件

## 2. 活動記録

### 令和4年度

- 4月 4日 大学院マス・フォア・イノベーション連係学府オリエンテーションを開催[対面形式]  
13日 令和4年度第1回IMIコロキウムを開催(令和5年3月までに計8回開催)
- 5月16日 英語研修スタート(対象者:プログラム生13名)  
25日 「大学院マス・フォア・イノベーション連係学府銘板除幕式」を開催[対面形式]
- 6月18日 学府説明会を開催[ハイブリッド形式]  
28日 「大学院マス・フォア・イノベーション連係学府設置記念式典・シンポジウム」を開催[ハイブリッド形式]
- 7月 6日 卓越社会人博士課程制度説明会(富士通株式会社 富士通研究所)を実施[対面形式]  
7月27日 Study Group Workshop (SGW)2022を開催[ハイブリッド形式]
- 8月 2日
- 11月21日~24日 「Forum "Math-for-Industry" 2022 -Mathematics of Public Health and Sustainability-」(ラ・トロブ大学主催)にプログラム生、プログラム担当教員が参加[ハイブリッド形式]
- 12月 1日 大学院マス・フォア・イノベーション連係学府ウェブサイトアップグレード  
2日 マス・フォア・イノベーション卓越大学院プログラム連携イベント「数理物理セミナー」「偏微分方程式論セミナー」を開催[対面形式]  
3日 入試説明会を開催[ハイブリッド形式]  
10日~11日 マス・フォア・イノベーション卓越大学院プログラム数理物理学研究会を開催[対面形式]  
17日 「大学院教育改革フォーラム2022」(東北大学主催)にプログラム生が参加
- 1月10日 令和5年度入学者 募集開始  
17日 Prelims(博士前期課程修了時の進学資格審査)を実施(学系ごとに1月~3月の間で実施)[オンライン形式]  
19日 名古屋大学卓越大学院イベント国際ワークショップ「3rd International Workshop on Education and Research for Future Electronics」にプログラム生、プログラム担当教員が参加  
26日 マス・フォア・イノベーション卓越大学院プログラム講演会「Rabi and Spin Boson Models」を対面で開催[対面形式]
- 2月 2日 令和2年度採択プログラムに係るプログラムオフィサー現地訪問【3年度目】  
13日 東北大学卓越大学院イベント「The 4th International Symposium on AI Electronics」にプログラム生、プログラム担当教員が参加  
20日~22日 イリノイ大学合同セミナー「Numbers and Theorems」を開催[対面形式]
- 3月 9日 令和5年度入学者 合格発表  
20日 大学院マス・フォア・イノベーション連係学府学位記授与式を実施[対面形式]  
20日~24日 日仏力学系研究集会を開催[対面形式]



# III 活動記録

## 3. 活動内容

### マス・フォア・イノベーション連係学府 銘板除幕式

日時：2022年5月25日(水) 10:10~10:30

場所：九州大学伊都地区ウエスト1号館 エントランス(C棟2階)前

出席者：8名

九州大学	石橋 達朗総長
九州大学	荒殿 誠理事
九州大学	谷口 倫一郎理事
大学院マス・フォア・イノベーション連係学府	辻井 正人学府長
大学院マス・フォア・イノベーション連係学府	佐伯 修副学府長
大学院マス・フォア・イノベーション連係学府	村田 純一副学府長
大学院マス・フォア・イノベーション連係学府	浦川 邦夫副学府長
大学院マス・フォア・イノベーション連係学府	白井 朋之教授



左から谷口理事、荒殿理事、石橋総長、辻井学府長、佐伯副学府長、村田副学府長、浦川副学府長、白井教授

令和4年4月、数理学府、システム情報科学府、経済学府を連係協力学府とする大学院マス・フォア・イノベーション連係学府が発足した。これは、文部科学省による研究科等連係課程実施基本組織であり、卓越大学院プログラムをそうした組織で実施しているのは本学のみである。さらに、本学独自のダ・ヴィンチプログラムを行う初めての学府でもある。この設置に伴い、銘板を新たに作成したため、その除幕式が同年5月25日に厳かに執り行われた。本学石橋総長の挨拶に続いて、総長、理事、学府長、副学府長が除幕を執り行い、最後に辻井学府長の挨拶で閉式となった。

### マス・フォア・イノベーション連係学府 設置記念式典・シンポジウム

日時：2022年6月28日(火) 〈設置記念式典〉13:00~14:00

〈シンポジウム〉14:00~17:00

場所：九州大学伊都地区ウエスト1号館 D棟4F IMIオーデトリウムおよびZoomオンライン

参加者：128名

出席者：15名

文部科学省	増子 宏高等教育局長
九州経済連合会	倉富 純男会長
関西経済同友会	生駒 京子代表幹事
住友電気工業株式会社	井上 治社長
帝京大学先端総合研究機構	甘利 俊一特任教授
国立情報学研究所 アーキテクチャ科学研究系	蓮尾 一郎教授
九州大学	石橋 達朗総長
九州大学	荒殿 誠理事
九州大学	谷口 倫一郎理事
九州大学	西田 憲史理事
大学院マス・フォア・イノベーション連係学府	辻井 正人学府長
大学院マス・フォア・イノベーション連係学府	佐伯 修副学府長
大学院マス・フォア・イノベーション連係学府	村田 純一副学府長
大学院マス・フォア・イノベーション連係学府	浦川 邦夫副学府長
大学院マス・フォア・イノベーション連係学府	白井 朋之教授



左後から白井教授、浦川副学府長、西田理事、谷口理事、佐伯副学府長、村田副学府長  
左前から蓮尾様、辻井学府長、荒殿理事、石橋総長、増子様、倉富様、甘利様、生駒様

令和4年4月に本学に設置された大学院マス・フォア・イノベーション連係学府の設置記念式典・シンポジウムが同年6月28日に開催された。

マス・フォア・イノベーション連係学府設置記念式典は、本学石橋総長の挨拶に始まり、文部科学省高等教育局長の増子宏様、一般社団法人九州経済連合会会長の倉富純男様、一般社団法人関西経済同友会代表幹事の生駒京子様、住友電気工業株式会社社長の井上治様の挨拶へと続き、本プログラムへの大きな期待の声をいただいた。

引き続き開催されたシンポジウムでは、帝京大学の甘利俊一様、国立情報学研究所の蓮尾一郎様、京セラ株式会社の沖野健太様から、それぞれ、数理工学や数学的証明の社会応用、あるいはバーチャルパワープラントにおける数学の活用などをテーマにご講演いただき、さらに連係学府の学生4名が「マス・フォア・イノベーションカフェ～連係学府生の研究紹介～」として研究発表を行った。

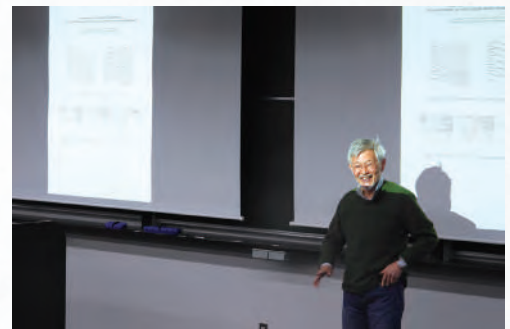
当日は、IMIオーデトリウムでの対面式とオンラインを併用したハイブリッド形式で行い、140名を超える参加者があった。関係者一同、新たな連係学府の船出に当たり、期待に胸を膨らませるとともに、社会からの期待の大きさにあらためて身を引き締まる思いとなる機会となったが、同時に、学生達の元気な様子に励まされるイベントともなった。

## Rabi and Spin Boson Models

日 時：2023年1月26日(木)

場 所：九州大学伊都キャンパスD棟4階 IMIオーデトリウム

参加者：Scientist, Augsburg University	Daniel Braak
Research Associate, University of Jena	Benjamin Hinrichs
大学院システム情報科学研究所	廣川 真男教授
大学院数理学研究所	廣島 文生教授
日本電信電話株式会社 NTTコミュニケーション科学基礎研究所	
リサーチアソシエイト	Cid Reyes Bustos
日本電信電話株式会社 NTTコミュニケーション科学基礎研究所	
数学研究プリンシパル	若山 正人



若山先生ご講演の様子

Rabi模型は一つの光子が2準位の原子と線形に相互作用する模型で、一方、spin-boson模型は無限個の光子が2準位原子と線形に相互作用する模型である。卓越大学院プログラムでは、これらの模型の理論的な専門家を一同に介して、Rabi模型とspin-boson模型のスペクトル解析に関する研究会を開催した。数論的な手法、スペクトル解析的な手法、また、物理的な側面からの発表もあり非常に多様化した研究会であり、参加したプログラム生にとっても有意義な会となった。廣島氏とHinrich氏はこの研究会をもとに共同研究を開始した。

なお、各講演者の発表内容については以下の通りである。

- ・Braak氏 : Rabi模型の可解性を世界で初めて示し、それに関する発表を行った。
- ・Reyes Bustos氏・若山氏 : 数論的立場からラビ模型に内在する対称性について発表した。
- ・廣島氏・廣川氏 : 廣島氏は、Rabi模型のスペクトルゼータ関数をくりこんで結合定数の無限大の極限でリーマンゼータ関数が現れることを示した。また、廣川氏はこの現象を対称性の自発的破れと質量生成のメカニズムとして発表した。
- ・Hinrich氏 : spin-boson模型の基底状態の存在を世界で赤外発散のある場合に初めて示し、それを発表した。

# III 活動記録

## Numbers and Theorems

日時: 2023年2月20日(月)~22日(水)

場所: イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校

参加者: 博士後期課程1年	隈部 哲(専門分野:数論)
博士後期課程1年	楊 曼(専門分野:確率論)
博士後期課程1年	成重 諒太(専門分野:物性理論)
博士前期課程2年	足立 大雅(専門分野:数論)
博士前期課程2年	太田 亮輔(専門分野:位相幾何)
博士前期課程2年	河面 瑛太郎(専門分野:統計)
博士前期課程2年	田島 凌太(専門分野:数論)
大学院数理学研究院	廣島 文生教授
ヤングメンター	小野塚 友一
	李 文



左から成重さん、河面さん、足立さん、李さん、楊さん、廣島教授、太田さん、田島さん、隈部さん、小野塚さん

卓越大学院プログラムでは、イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校のYuliy Baryshnikov教授と共同で研究集会を開催した。この研究集会の目的は(1)研究成果の発表(2)英語発表の実践的経験である。学生が自身の独自の研究成果をイリノイ大学の専門家の前で発表して質疑応答する形式で行われた。

1日目は楊さん、太田さん。2日目は隈部さん、足立さん、田島さん、河面さん。3日目は成重さんが発表を行った。発表内容は、位相幾何(コボルディズム論)、数論(超幾何、ゼータ関数、モジュラー形式)、確率論(平滑化)、統計(安定線形回帰)、物性理論(スパッタエキシタビー法)に関するもので、発表中も発表終了後も非常に多くの質問があった。また、学生は、イリノイ大の大学院生と研究集会外でも議論する機会を得ることができ、大変実り多い研究集会となった。

## 卓越大学院プログラム プログラムオフィサー現地訪問

日時: 2023年2月2日(木) 13:15~16:10

会場: 九州大学伊都キャンパス 理学部等大会議室(ウエスト1号館C408)

出席者: プログラムオフィサー	山田 道夫(京都大学数理解析研究所、特任教授・名誉教授)
マス・フォア・イノベーション連係学府学府長	辻井 正人(プログラム責任者)
マス・フォア・イノベーション連係学府副学府長	佐伯 修(プログラムコーディネーター)
マス・フォア・イノベーション連係学府副学府長	浦川 邦夫
マス・フォア・イノベーション連係学府学系長、教務委員長	白井 朋之
マス・フォア・イノベーション連係学府学系長	竹内 純一
マス・フォア・イノベーション連係学府学系長	瀧本 太郎
マス・フォア・イノベーション連係学府教授	梶原 健司
マス・フォア・イノベーション連係学府教授	廣瀬 慧
マス・フォア・イノベーション連係学府教授	神山 直之

第3回目のプログラムオフィサー(以下、POと略記)による現地訪問が、令和5年2月2日に、初めて対面で行われた。

まず本プログラムの進捗状況等の説明がプログラムコーディネーターからあり、POとの質疑応答、及び意見交換が行われた。本学の未来人材育成機構、卒業生に対するサポート体制、数学共創モデリングでの他分野の受入教員の反応や負担感、数理学系と他学系の学生の交流、グローバル・アドバイザー・ボード、多忙な学生への対応、学生への経済的支援などが主なテーマであった。

続いて自由説明としての2名の学生による異分野連携についてのプレゼンのあと、プログラム担当教員は退出し、POと学生5名が直接意見交換を行った。そして最後にPOによるまとめが、本学教員に対して行われた。

POからは、全体を通してプログラムが順調に進んでいる印象であること、前は学生から多忙という声も聞かれたが、その問題が解決され、さらに学生が前向きに捉えている印象があること、などのコメントがあった。また、海外留学や経済的支援が魅力といった声もあり、優秀な学生を集めるためにも、しっかりとした体制で実施して欲しいといったご意見も頂戴した。

概してPOの評価は肯定的で、今後もいただいた意見や助言を取り入れる形で、プログラム担当教員が協力して、本プログラムを改善してゆきたいと考えている。



辻井学府長



佐伯副学府長



浦川副学府長



白井学系長



竹内学系長



瀧本学系長



梶原教授



神山教授



廣瀬教授

# III 活動記録

## 卓越社会人博士課程制度

卓越社会人博士課程制度は、学生の経済的支援・キャリア形成といった、日本の博士課程進学者数の伸び悩みの主な原因の解決に加え、産学連携の優れたモデル作りに資するため、本プログラムと企業等が一体となって、博士人材を育てることを目的とする日本初の制度である。本制度の概要は、博士前期課程修了後ただちに若しくは博士後期課程1年次終了後ただちに、本制度において本プログラムと連携する企業等に就職し(ただし、博士後期課程の在学者にあっては、企業等との折り合いがつけば年度途中であっても制度利用可能)、就職と同時に企業等に籍を置きながら、博士後期課程に進学又は在学する、というものである。

令和4年度は、富士通株式会社富士通研究所との連携により本制度を実施した。

令和5年度も、富士通株式会社富士通研究所との連携により本制度を実施する予定であり、今後は本制度への協力企業の増加を目指す。

### 博士前期課程修了後、企業が採用、同時に社会人として博士後期課程に進学

- 経済的支援、キャリア構築、産学連携強化、大学・企業間人材往還促進等、複数の課題が一挙に解決
- 富士通株式会社富士通研究所を中心に連携実績のある他企業とも協力、本連係学府で日本初の制度化
- 毎年1~2名に制度適用を目指す



## Prelims

Prelimsは博士前期課程修了時の進学資格審査で、修士論文の審査に合格した学生を対象に、口頭発表(20分)および質疑応答(20分)により、所属学系の学術基盤および修士論文の学術的な達成度、プレゼンテーション能力、今後3年間の研究・活動計画などを評価し、これとコースワークの絶対評価による成績を総合して数学力、統計力、モデリング力、共創力および基本的な創発力の到達度を判断し、博士後期課程への進学を審査するものである。

令和4年度は、数理学系から9名、システム情報科学系から2名、経済学系から1名の計12名に対して、令和4年度末にPrelimsをオンラインで実施した。審査にあたっては、多角的な視点から学生の審査をするため、数理学府、システム情報科学府、経済学府の3学府をはじめとする各学府のプログラム担当者から2名以上、指導教員、共創メンター、プログラム担当者以外の教員およびプログラム責任者が必要と認めた者などによりマス・ファイブ・フォース(MFF)審査委員会を組織し、各審査委員が上述の評価項目に対して査定を行い、総合的に評価し、12名全員を合格と判定した。また、Prelims合格者は、本審査結果を以て、大学院マス・フォア・イノベーション連係学府博士後期課程入試に合格と認定した。

## Preliminary Thesis Exam

Preliminary Thesis Examは博士後期課程2年次終了時の博士論文執筆資格審査で、研究の背景・過程・今後の戦略、数学共創モデリング・数学創発モデリングの報告、共創力強化インターンシップの報告、卓越大学院プログラムの種々の活動報告などのプレゼンテーションおよび質疑応答により、実践的なモデリング力・共創力・創発力を身につけているか、研究の背景・過程・研究方法は博士論文として適切か、研究の今後の展望は、当該分野において新規性、独創性を持った論旨・結論を期待できるものかなどを評価し、博士論文執筆の資格を審査するものである。

令和4年度は、数理学系から3名、システム情報科学系から1名の計4名に対して、Preliminary Thesis Examを実施した。審査にあたっては、多角的な視点から学生の審査をするため、数理学府、システム情報科学府、経済学府をはじめとする各学府のプログラム担当者から2名以上、指導教員、共創メンター、プログラム担当者以外の教員およびプログラム責任者が必要と認められた者などによりマス・ファイブ・フォース(MFF)審査委員会を組織し、各審査委員が上述の評価項目に対して査定後、総合的に評価し、4名全員を合格と判定した。

## 英会話学習サポート

本プログラムでは、将来研究を進めていくうえで、『英語』は欠かせないものであるという概念の下、海外インターンシップや海外留学を推奨しており、そのための準備として、無料で参加できる独自の英会話学習サポートを実施している。本プログラムが導入した英語研修は、講師にネイティブの方、バイリンガルの方を迎え、少人数制(1クラス当たり6名程度)で実施し、「Reading」「Listening」「Speaking」「Writing」の4技能をバランスよく鍛えるものである。

土台から英語力を身に付けるため、本研修は1年間編成のカリキュラムによって実施された。コロナ禍の影響もあったが、令和4年度は対面形式でレッスンを実施することができた。また、昨年度同様、レッスンに加えて「E-learning」を導入することにより、移動中等の隙間時間にも活用できる環境を整えた。

**委託先機関** 株式会社 アルクエデュケーション

**受講対象者** マス・フォア・イノベーション連係学府 新入生



# III 活動記録

## 令和4年度カリキュラム

前期	導入講座 ※ネイティブ講師が担当	英語基礎力養成講座	英語スピーキング 実践講座
	2コマ	8コマ	8コマ
↓			
後期	アカデミック英語講座		英語プレゼンテーション講座
	16コマ		8コマ

## 実績

英語研修受講前と受講後に株式会社アルクエデュケーションの『TSST-英語スピーキングテスト-』を活用し、学生の英語力を測定した。

『TSST-英語スピーキングテスト-』とは、ペーパーテストでは測定できない、英語スピーキング能力を把握するためのテストである。自分の考えを「その時」「その場で」瞬時に話し伝える能力＝英語運用能力を判定する。

テストは電話で実施し、全部で10問出題され、100～995点のスコア(5点刻み)で結果が出る。

特にスコアの上昇が大きかった学生の結果は下表の通り。

	令和4年5月受験	令和5年2月受験	スコア変移
A氏	315点	430点	115点UP
B氏	355点	435点	80点UP
C氏	300点	365点	65点UP
D氏	330点	400点	60点UP
E氏	360点	400点	40点UP

## 学生の声

\*カリキュラム終了後、株式会社アルクエデュケーションが実施したアンケートより引用

- ・ネイティブの方と話す機会があるのは、英語を学ぶ上でとてもいい機会になった。
- ・話すだけでなく、国や言語の歴史といったところまで教えてくださり、より深い学びができた。
- ・マンツーマンでの研修になった際、私の英語のレベルに合わせてご指導いただいたので、満足でした。

## 今年度の総評

昨年度の反省点を活かし、今年度は、受講対象のプログラム生を対象に、英語研修の開催前に動機付けを目的とした説明会を行った。その結果、学生が意志を持って研修に参加する動機付けに繋げることができた。また、年度末に実施した学生アンケートにおいて『英語研修を実施してよかったか』という質問に対し、『実施してよかった』と回答した学生が20%増加し、『特に行わなくてよかった』と回答した学生が0%になるなど、成果として顕著に表れた。

一方で、昨年度の課題でもあった、一部の学生の出席率はやはり芳しくなかった。その要因として、受講対象者を新入生である博士前期課程1年生に絞っていたことが挙げられる。博士前期課程1年生は授業に忙しく、また、英語を実際に必要とする機会が少ないため、英語研修に対する優先順位が低くなり、モチベーションが保てなかったのではないかと考える。これらを踏まえ、来年度は、国際学会での発表や海外へのインターンシップへの参加など、より実践的な英語能力が必要となる博士後期課程を含めたプログラム生全員を対象とし、希望学生を対象に英語研修を実施することとした。

## マス・フォア・イノベーションカフェ

ヤングメンターが主催し、大学院生や教員、さらには本プログラムに興味を持つ学部生(他分野も含む)に参加してもらい、数学をテーマにした研究内容を分かりやすく紹介し、様々な視点から意見交換を行いながら、交流を深めることを目的に企画されたのがマス・フォア・イノベーションカフェである。ソフトドリンクや軽食を楽しみながら懇談する時間を設ける予定だったが、令和4年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から大規模に集まることは断念し、小人数かつ飲食無しで開催されることとなった。

学生たちを小グループに分け、グループごとに毎月1回程度、マス・フォア・イノベーションカフェを開催した。カフェでは学生たちとヤングメンターが懇談し、情報交換や悩み事の相談、研究の進捗状況などさまざまな内容を話し合った。定期的に集まって会話を重ねることで学生同士の交流を深めることができ、とても有意義な場となった。

今年度のカフェは小グループに分かれての開催となったため、顔を合わせる人が限定されてしまっていた。来年度は、新型コロナウイルス対策をしながらもさまざまな人と交流を深められるような機会を作りたいと考えている。



## マス・フォア・イノベーションセミナー

マス・フォア・イノベーションセミナーは他分野への応用に取り組んでいる数学者や、数学を応用している数学以外の研究者の方に講演していただくセミナーである。プログラム生が主体となって運営し、ヤングメンターがサポートする体制となっている。プログラム生が候補者を選び講演依頼をし、会場の準備や当日の司会を担当する。

プログラム生自身が興味のある分野の専門家を選ぶことができ、また、セミナーの運営経験までできるのがマス・フォア・イノベーションセミナーの特徴である。

昨年度、セミナーを8回開催したところプログラム生の負担が大きすぎるとの意見があったため、今年度は開催回数を大幅に減らし、1回のみで開催となった。セミナーには生物学の先生にお越しいただき、生物の「かたち」の数理モデリングについてご講演いただいた。普段の勉強ではなかなか知ることのできない話を聞くことができ、とても有意義なセミナーだった。

今年度はセミナーの開催回数減少のため、諸分野の先生方の講演を聞く機会が限られてしまった。来年度はプログラム生の負担に配慮しつつ、セミナー回数を増やしていきたいと考えている。

# III 活動記録

## 学生満足度調査アンケート

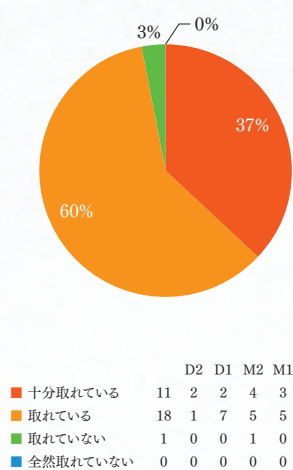
本プログラムでは、プログラム生としての満足度や疑問点等について調査を行うため、「学生満足度調査アンケート」を、令和4年度は年度末に実施した。アンケートでは、学生生活に対する満足度に加え、3学府が関係したプログラムであること、また、本プログラムの特徴的な科目である「数学共創モデリング」に対して学生が実際に感じている生の声をヒアリングし、次年度以降のプログラム運営に反映することを目的として行った。なお、アンケートの公平性を保ち、よりリアルな学生の意見を得るため、Microsoft社のFormsを使用したWeb形式により、匿名で実施した。アンケートでは、経済的支援に対する不満等も見受けられたが、プログラム生としての満足度は概ね良好であった。次年度以降のプログラム運営体制の改善に繋げるため、アンケート実施後、プログラム関係者へアンケート結果について周知を行った。

### 学生満足調査アンケート結果

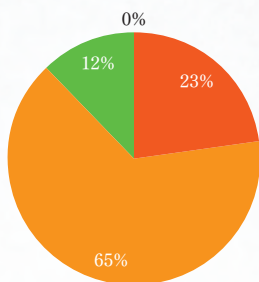
実施時期：令和5年3月  
回答者数：30名（対象：プログラム生 全33名）



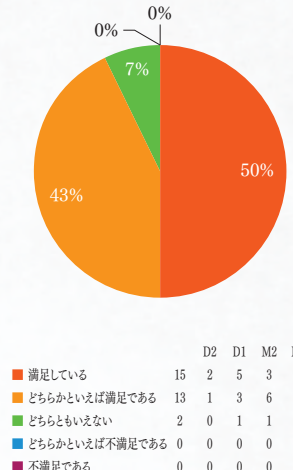
5 学習、研究の時間はとれていますか? 単一選択



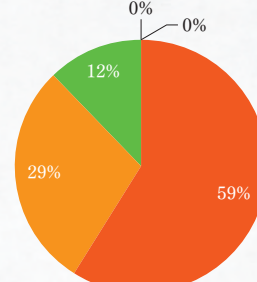
参考(昨年度データ)



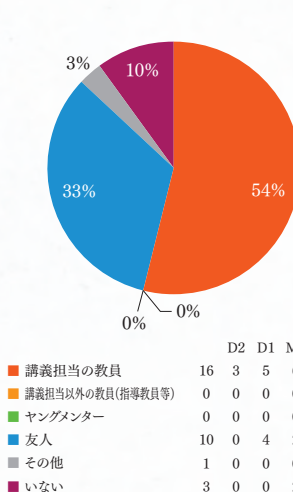
6 マス・フォア・イノベーション連係学府の教育内容についてのくらい満足していますか? 単一選択



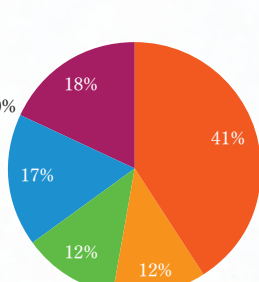
参考(昨年度データ)



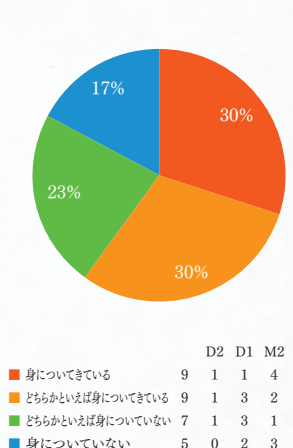
7 講義等でわからないことがあったとき、質問できる人はいますか? いる場合、それは誰ですか? 単一選択



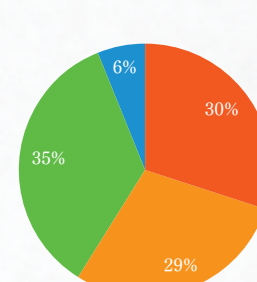
参考(昨年度データ)



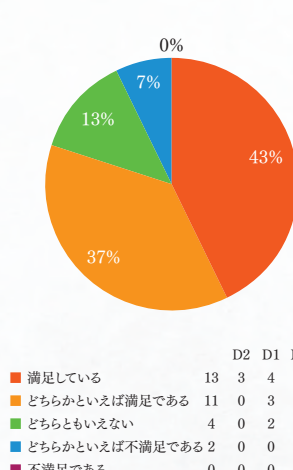
8 プログラミングスキルが身についてきていると自分自身で感じますか? 単一選択



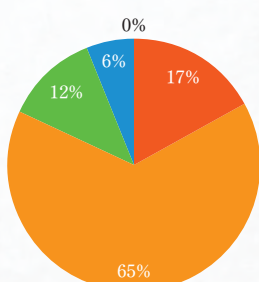
参考(昨年度データ)



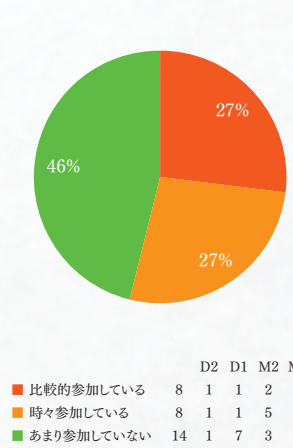
9 経済的支援について、どのくらい満足していますか? 単一選択



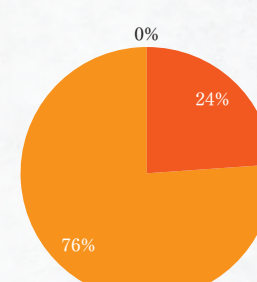
参考(昨年度データ)



10 マス・フォア・イノベーションカフェについて、どのくらい参加しましたか? 単一選択



参考(昨年度データ)



はじめに

プログラムについて

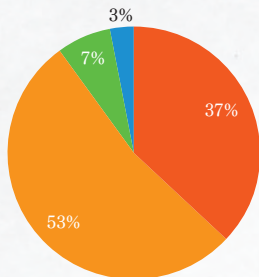
3. 活動内容

学生レポート等

# III 活動記録

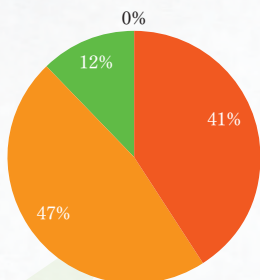
11 数理学府、システム情報科学府、経済学府等の学生に比べて、マス・フォア・イノベーション関係学府生は忙しいと感じますか？

単一選択



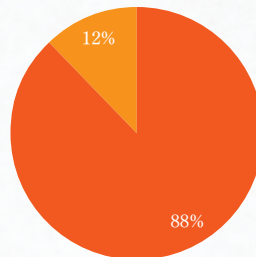
	D2	D1	M2	M1	
■ 忙しい	11	1	5	3	2
■ どちらかといえば忙しい	16	2	2	6	6
■ どちらかといえば忙しいと感じない	2	0	1	1	0
■ 忙しいと感じない	1	0	1	0	0

参考(昨年度データ)



12 Ⅲで「忙しい」「どちらかといえば忙しい」と答えた方に伺います。やりがいを感じていますか？

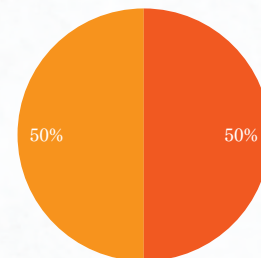
単一選択



	D2	D1	M2	M1	
■ やりがいを感じている	23	3	6	6	8
■ 改善してほしい	3	0	1	2	0

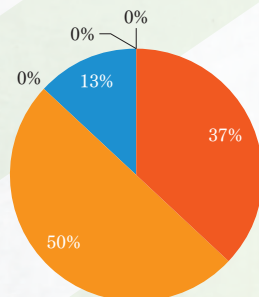
該当者は27名(「忙しい」:11名、「どちらかといえば忙しい」:16名)であるが、回答は26件であった。

参考(昨年度データ)



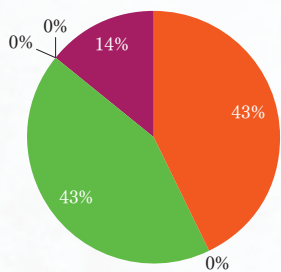
13 システム情報科学系、経済学系の関係学府生に伺います。自身の研究テーマにおいて、数学的にわからないこと、知りたいことが出てきたとき、質問できる人はいますか？ いる場合は、それは誰ですか？

単一選択



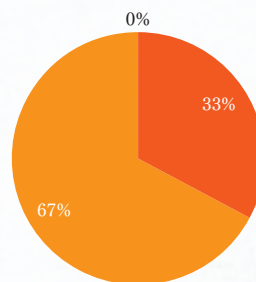
	D2	D1	M2	M1	
■ 指導教員	3	0	0	1	2
■ 共創メンターの教員	4	1	3	0	0
■ ヤングメンター	0	0	0	0	0
■ 友人	1	0	0	0	1
■ その他	0	0	0	0	0
■ いない	0	0	0	0	0

参考(昨年度データ)



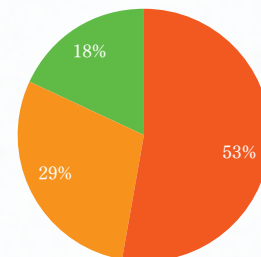
14 令和4年度英語研修に参加した方に伺います。英語研修をやってよかったと思いますか？

単一選択



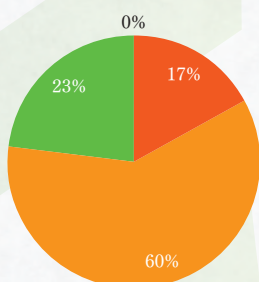
	D2	D1	M2	M1	
■ やってよかった	5	0	1	1	3
■ どちらかというやってよかった	10	0	2	3	5
■ 特に行わなくてよかった	0	0	0	0	0

参考(昨年度データ)



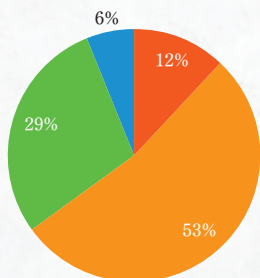
15 マス・フォア・イノベーション関係学府は後輩に勧めたいですか？

単一選択



	D2	D1	M2	M1	
■ ぜひ勧めたい	5	0	0	2	3
■ 勧めたい	18	3	7	4	4
■ どちらでもない	7	0	2	4	1
■ 勧めない	0	0	0	0	0

参考(昨年度データ)



## 4. 広報活動

### ホームページ改訂

「大学院マス・フォア・イノベーション関係学府」設立に伴い、ホームページの改訂を行った。

改訂を行うにあたり、利用者であるプログラム生へ利用状況アンケートを匿名で実施し、アンケートを通して得た意見を活かし様々な改善を行った。たとえば、「データが重くてページを開くのに時間がかかる」という意見のもと、トップページのアニメーション機能を大幅に減らすことでデータ容量を減らし、ページを開く時間を短縮させた。また、「スクロールが多く情報が入手しづらい」という意見のもと、スクロールせずに全体の情報が手に入るようレイアウトを修正した。このように、学生にとって利用しやすいホームページを構築した。

また、任意で表示できる「ピックアップ」機能をトップページに追加し、その時々にもっとも知らせたい情報を画面トップに掲載する機能を構築した。また、国内外の優秀な学生獲得を目的に、英語版ウェブサイトを構築することはもちろん、利便性向上のため、各ページ上で日本語版と英語版を行き来できる機能を新たに追加した。



ホームページ(日本語版)



ホームページ(英語版)

### マス・フォア・イノベーション関係学府パンフレット

本学府の設置に伴い、幅広い分野の学生獲得を目指し、ページ数を8ページから16ページに増やした詳細版パンフレットを作成した。

詳細版パンフレットでは、様々な分野の教員が本学府に携わっていることを、簡潔かつ分かりやすくアピールするため、見開き2ページにわたる顔写真付きの担当教員ページを作成した。さらに、入試情報については、学年ごとに情報を入手しやすい構成とするため、博士前期課程・博士後期課程それぞれのページを作成した。

また、学生を手厚くサポートする体制について紹介するため、本プログラムの特徴の一つであるマルチメンター制度について詳細に記したページや、独自で行っている英会話学習サポートに関するページを新たに追加した。

今後も、学生の関心を惹きつけられるパンフレットにアップデートすることで、優秀な学生獲得に繋げていきたい。



令和4年度パンフレット

# III 活動記録

## ギャラリー



オリエンテーション



修士論文発表会



共創力強化インターンシップ報告会



学位記授与式



設置記念式典の甘利先生講演



Study Group Workshop 2022

はじめに

II

プログラムについて

III

4. 広報活動

IV

学生レポート等

# III 活動記録

## その他

本学府の設置に伴い、マス・フォア・イノベーション関係学府ポスターおよび学府紹介パネル(本学椎木講堂2階ホワイトエ設置)を作成した。ポスターでは、本学府のテーマカラーであるオレンジを基調とし、プログラムのロゴを主張させたシンプルなデザインのポスターを作成した。文理融合型プログラムであることを強調するため、一部の書体に明朝体を取り入れるなどの工夫を凝らした。また、一般の方へ紹介することを目的として作成した学府紹介パネルでは、学府の概要や特徴、カリキュラムについて簡潔にまとめた上で、来訪者が学府の情報を入手しやすいようビジュアル主体のレイアウトとした。

また、本学府の設置を記念した「マス・フォア・イノベーション関係学府設置記念式典・シンポジウム」開催にあたり、ポスターを作成した。なお、本ポスターは、上記本学府ポスターのデザインを基調として作成した。

さらに、佐伯プログラムコーディネーターが西日本新聞による取材を受け、2022年5月15日の新聞に本学府設置に関する記事が掲載された。



マス・フォア・イノベーション関係学府ポスター



マス・フォア・イノベーション関係学府紹介パネル



マス・フォア・イノベーション関係学府 設置記念式典・シンポジウムポスター



2022年5月15日 西日本新聞掲載記事